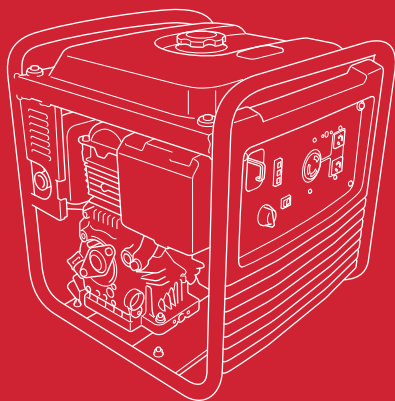




発電機

EG25i

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

Honda 発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。
います。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげ販売店またはサービス店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

- 運転をするときには、必ず携帯してください。
- 発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。



本製品は、(一社)日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機を安全かつ能率的に使用する手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう... 4	
安全ラベル.....8	
各部の名称と取扱いをおぼえましょう..... 9	
エンジンスイッチ..... 11	
始動グリップ..... 11	
燃料コックレバー..... 12	
燃料計..... 12	
チョークロッド..... 13	
エコスロットルスイッチ..... 14	
出力表示灯..... 15	
過負荷警告灯..... 16	
オイル警告灯／チェック..... 17	
周波数切換えスイッチ..... 18	
交流コンセント..... 18	
アース端子..... 19	
運転する前に点検しましょう..... 20	
燃料の点検..... 20	
エンジンオイルの点検..... 22	
エアクリーナー（空気清浄器）の点検..... 23	
発電機周辺の点検..... 24	
発電機のかげかた..... 25	
電気の取出しかた..... 27	
発電機のとめかた..... 31	
定期点検を行いましょう..... 32	

点検・整備のしかた	33
同梱工具	33
エンジンオイルの交換	33
エアクリナー（空気清浄器）の清掃・交換	35
スパークプラグの点検・調整・交換	38
スパークアレスターの清掃	40
燃料ろ過カップの清掃	41
非常用電源などの用途にご使用の場合には	43
運搬する場合には	44
長期間使用しないときの手入れ	45
修理を依頼する前の簡単な点検	48
主要諸元	50
交流電源の使用できる範囲	51
配線図	52

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- この発電機は車載用としては製造していませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転する前に点検しましょう」(20～24 頁)を行ってください。事故や本機、使用電気機器の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすおそれがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。

警告

作業を始める前に

- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり、炎や、火花などの火気を近づけないでください。
- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 発電機は平坦で堅い場所に置いて使用してください。小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟かい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や接続の電気機器が故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。本機や接続の電気機器が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。また、保管しないでください。雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

警告

使用中は

- 使用中は建物およびその他の設備から 1 m 以上本機を離してください。
発電機から出る排気ガスは熱くなります。まわりに危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（わらくず、紙くずなど）は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。本機や接続の電気機器に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラーなどが非常に熱くなっています。エンジン本体やマフラーなどに触れたり、物をのせないでください。ヤケドなどの傷害や火災事故を引き起こすおそれがあります。
- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
燃料漏れや振動による自然移動、転倒による本機や接続の電気機器の損傷、故障の原因など思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。
- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、コンセントから電気機器のプラグを外してください。プラグを外さないといわずらなどで電気機器が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。

警告

使い終わったら

- 発電機を水洗いしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。
- 長期保管前には、燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜き取り、発電機を火気や、湿気、凍結のおそれのない所に保管してください。抜き取った燃料は火災や爆発の危険性がありますので適切な処理をしてください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを“停止”の位置にし、スパークプラグキャップを外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

安全ラベル

発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。

安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

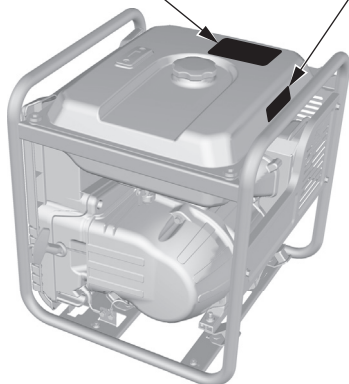
ラベルは、はっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものを貼ってください。

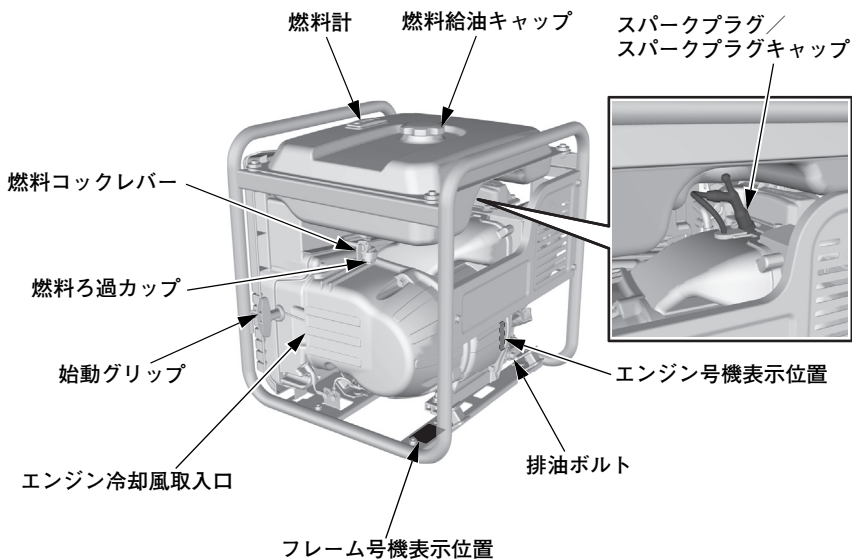
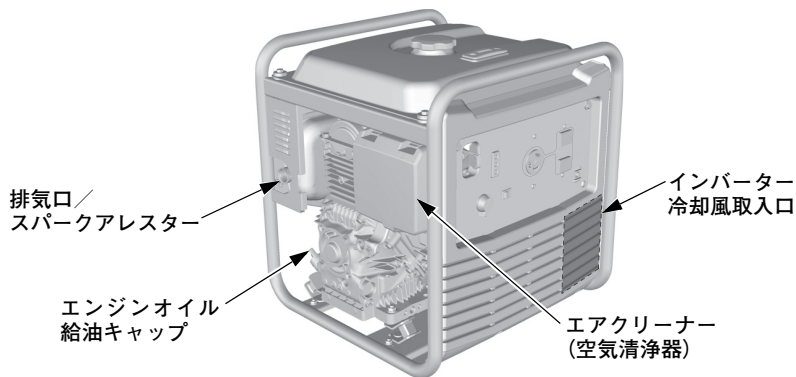
安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。

	注意 ヤケドのおそれがあるので、排気口にふれないこと。
	警告 火災や爆発により死傷のおそれがあるので、 ■給油時にはエンジンを停止すること。 ■給油口に火を近づけないこと。 ■こぼれた燃料は完全にふき取ること。 ■燃料は赤しべれ以上に入れないこと。 ■可燃物のそばで使用しないこと。
	排気ガスによる中毒のおそれがあるので、 ■換気の悪い所で使用しないこと。 ■人・建物・設備に排気を向けられないこと。
	感電や火災のおそれがあるので、 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないこと。
	感電のおそれがあるので、 ■雨中使用禁止。 ■濡れた手でさわらないこと。
	事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

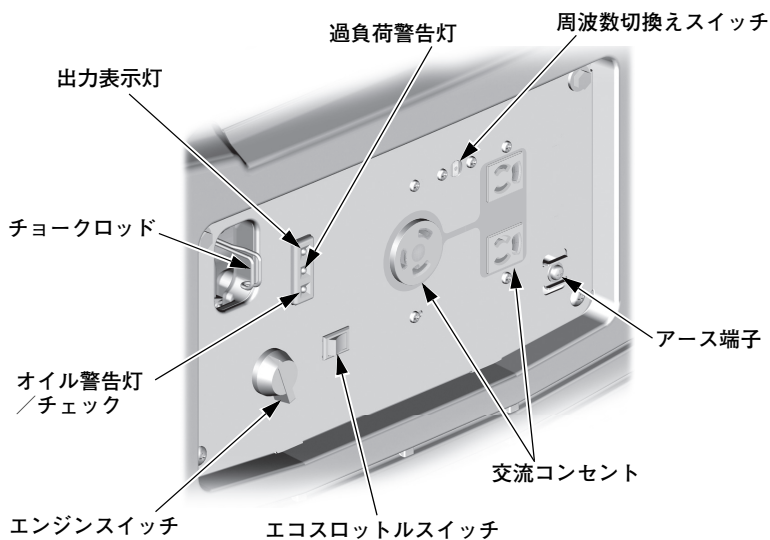
	注意 高電圧注意 感電のおそれがあるので、運転中はスパークプラグにさわらないこと。
--	--



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

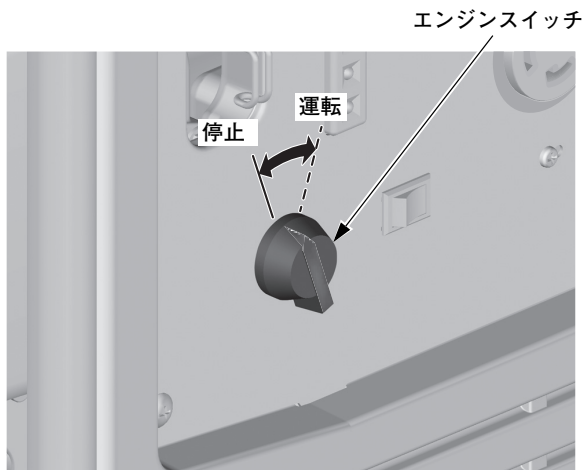


コントロールパネル



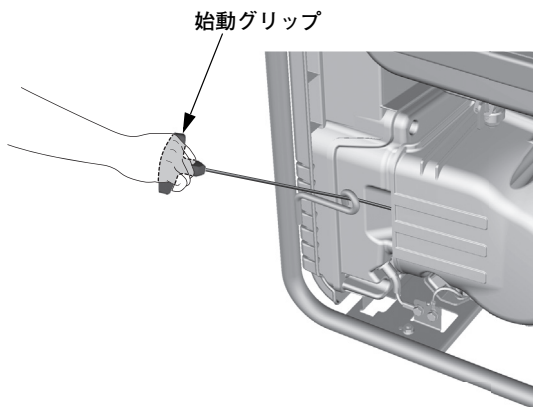
エンジンスイッチ

発電機を運転、停止するときに操作します。



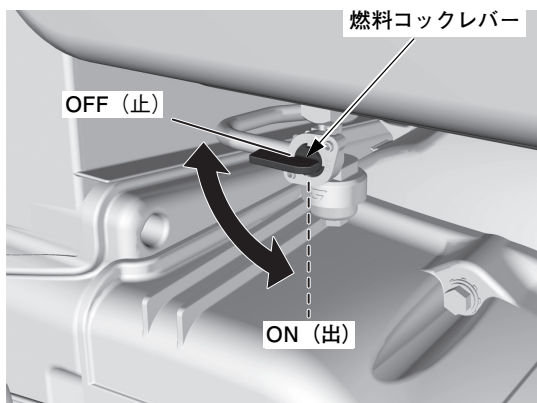
始動グリップ

発電機を始動するときに操作します。



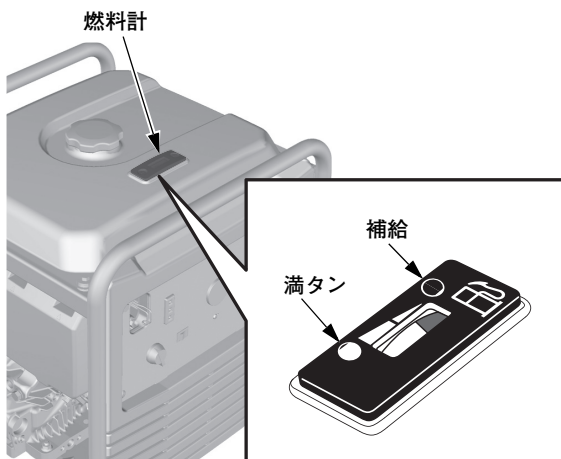
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に“ON”（出）、“OFF”（止）の位置に合わせてください。



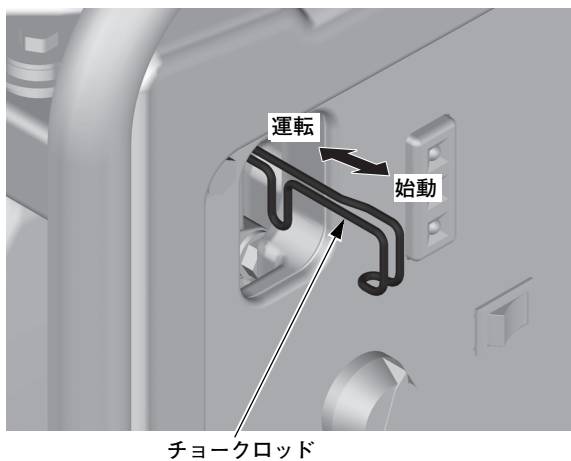
燃料計

燃料計の赤い表示が燃料の残量を示します。
赤い表示の端部が“補給”に近づいたら早目に補給してください。



チョークロッド

始動時にエンジンが冷えている場合は、チョークロッドを “ 始動 ” の方向に操作します。



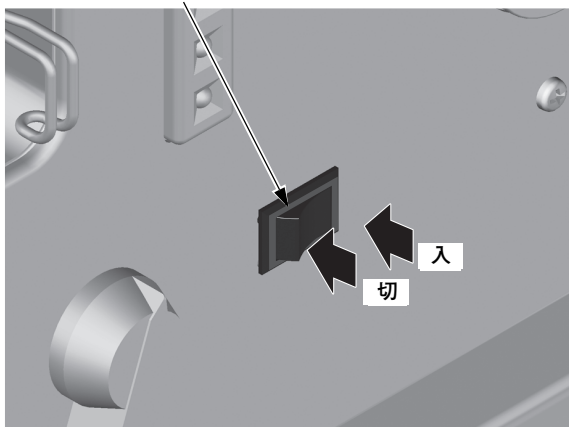
エコスロットルスイッチ

エコスロットルは、負荷に応じエンジン回転を変化させ、燃料消費と騒音を減らします。

スイッチ	エンジン回転	効果・特徴
入	変化範囲が広い (負荷に合わせる)	燃料消費と騒音を減らす
切	変化範囲が狭い (定格回転数を維持)	・ 負荷変動の大きい機器に適す (モーター動力の機器に適す) ・ 高負荷機器 (定格出力以下) に適す

- ・ 保護機能によりスイッチ“入”で電気を取出せない場合があります。エンジンを一旦停止して、スイッチ“切”で発電を試みてください。

エコスロットルスイッチ



出力表示灯

発電状態と累積運転時間を確認できます。

- 発電中は出力表示灯（緑のランプ）が点灯し続けます。
- 累積運転時間はエンジン始動時の点滅回数で示します。
累積運転時間に応じて、定期点検（32 頁参照）を行ってください。

点滅なし：100 時間未満

1 回点滅：100 時間以上、200 時間未満

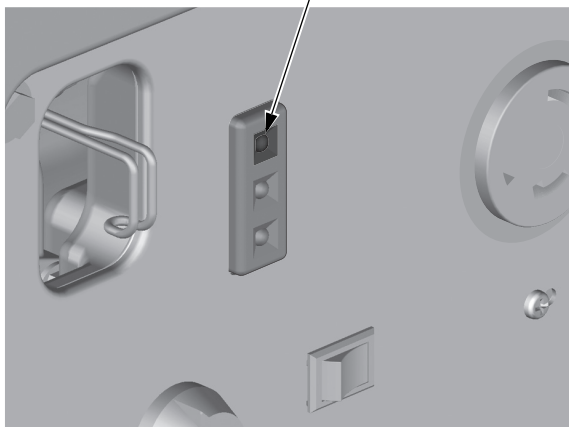
2 回点滅：200 時間以上、300 時間未満

3 回点滅：300 時間以上、400 時間未満

4 回点滅：400 時間以上、500 時間未満

5 回点滅：500 時間以上

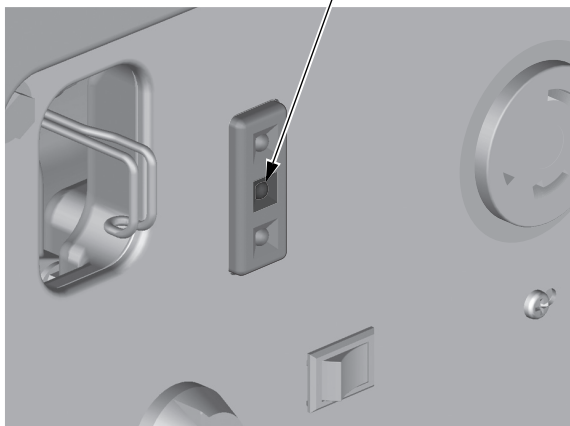
出力表示灯（緑）



過負荷警告灯

発電中に使用電気機器に異常があった場合や、過負荷のとき、またインバーターの温度が異常に高くなったときに出力表示灯（緑のランプ）が消え過負荷警告灯（赤のランプ）が点灯し、電気が取出せなくなります。電気機器は必ず定格出力内で使用してください。主要諸元（50 頁）、交流電源の使用できる範囲（51 頁）を参照してください。

過負荷警告灯（赤）



オイル警告灯／チェック

エンジンオイル量の不足を警告するランプです。

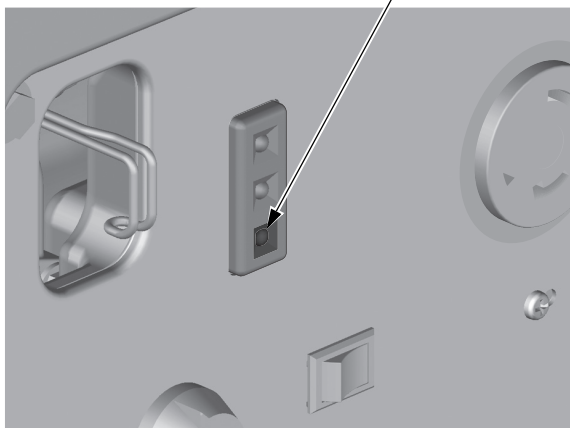
本機のエンジンにはオイルアラート機構（焼付防止エンジン自動停止装置）が内蔵されています。運転中にエンジンオイルが不足すると、オイル警告灯／チェック（赤のランプ）が点灯し、エンジンは自動的に停止します。

始動グリップを引いてオイル警告灯／チェック（赤のランプ）が点灯する場合、または運転中オイル警告灯／チェックが点灯しエンジンが停止した場合は、エンジンオイル量を点検し、補給してください。（点検、補給は 22 頁参照）

オイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイルアラート機構が働き、エンジンが停止することがあります。

オイル量が正常で、エンジン始動後すぐに停止し、オイル警告灯／チェックが点灯する場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

オイル警告灯／チェック（赤）

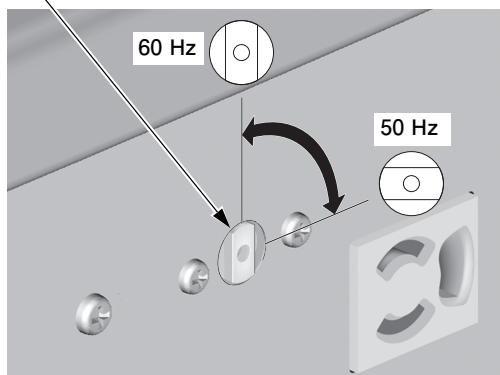


周波数切換えスイッチ

周波数の切換え (60 Hz ↔ 50 Hz) を行うスイッチです。

エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせ周波数を切換えてください。

周波数切換えスイッチ



交流コンセント

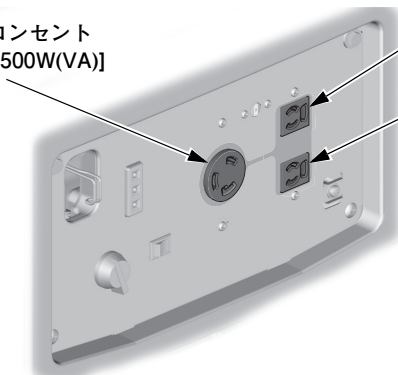
交流電気を取出す所です。

コンセントへプラグを差込む場合は、接触不良、抜けのないように確実に行ってください。

電気の取出しは、

- コンセントごとの上限を超えないでください。
- 合計が発電機の上限2500 W (VA) を超えないでください。(50 頁参照)

100V 交流コンセント
最大 25A [2500W(VA)]



100V 交流コンセント
最大 15A [1500W(VA)]

100V 交流コンセント
最大 15A [1500W(VA)]

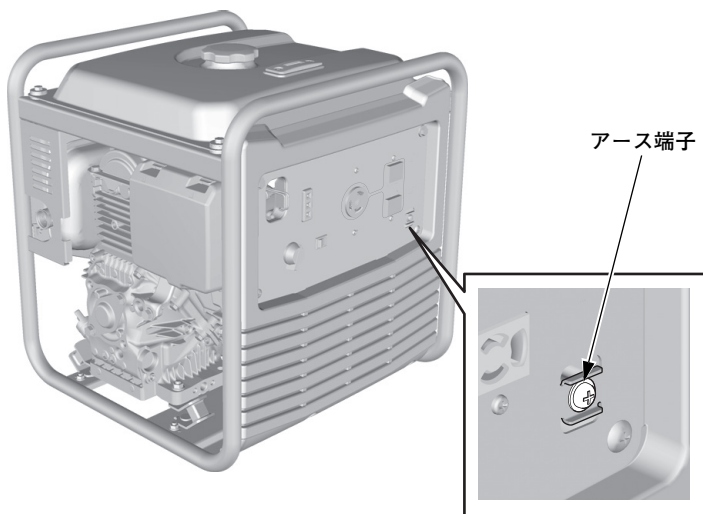
アース端子

発電機をアースする端子です。

発電機に接続する電気機器を大地にアースしたときは、発電機も必ずアース*してください。

※アース工事には「電気工事士」の資格が必要です。

アースに関するご不明点は、お買いあげ販売店にご相談ください。



運転する前に点検しましょう

⚠警告

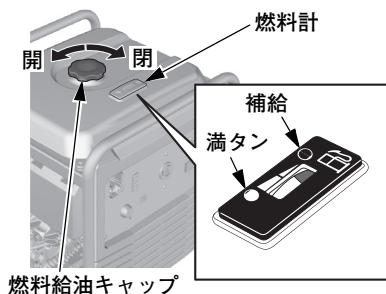
点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを“停止”の位置にし、スパークプラグキャップを取外して行ってください。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料の点検

点検

燃料計で燃料の量を確認してください。少ない場合は補給します。



⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

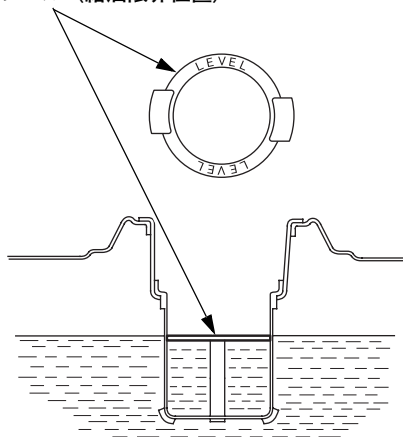
- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやケドを負うおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは口元まで入れず所定のレベルを超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

補給

使用燃料: 無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れることがあります。
- 補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

レベル（給油限界位置）



取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。

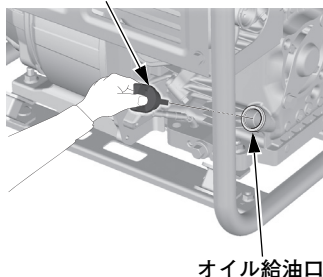
エンジンオイルの点検

点検

オイル給油キャップを外し、オイル給油口の口元までオイルがあることを確認してください。

汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は 33 頁参照)

オイル給油キャップ



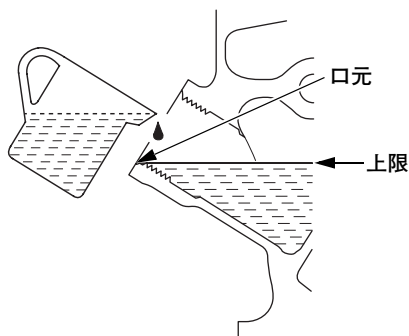
補給

- 少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。

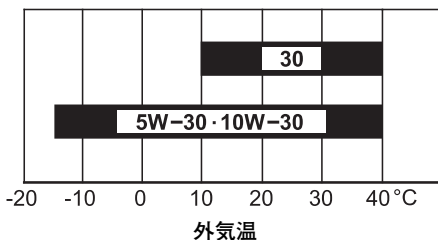
- 推奨オイル

Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE 10W-30)

または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。



エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



点検・補給後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。

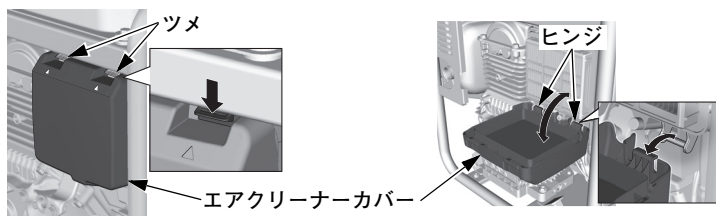
取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリナー（空気清浄器）の点検

点検

1. エアクリナー上部（▲マーク）のツメを押し下げて、エアクリナーカバーの上部を外します。
2. エアクリナーカバーを開き、エアクリナーカバーの下部（ヒンジ）を外します。



3. ろ過部（ウレタン）：エアクリナーカバーからろ過部（ウレタン）を取外し、汚れ具合を確認します。汚れがひどい場合は、清掃をします。（清掃方法は 35 頁参照）
4. ろ過部（紙製）：エアクリナーケースからグリッドとろ過部（紙製）を取外し、汚れ具合を確認します。汚れがひどい場合は、清掃をします。（清掃方法は 36 頁参照）



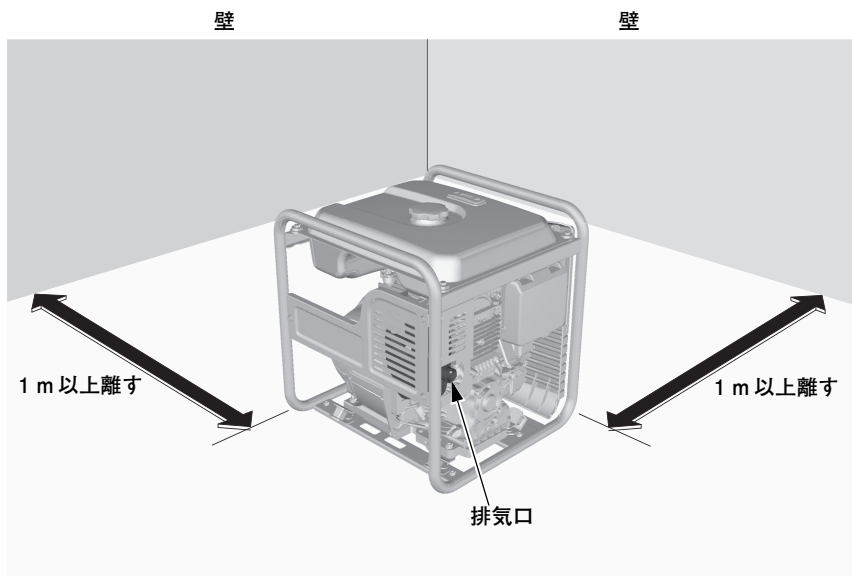
5. ろ過部（紙製）とグリッドをエアクリナーケースに確実に取付けます。
6. ろ過部（ウレタン）をエアクリナーカバーの内側に確実に取付けます。
7. エアクリナーカバーをエアクリナーケースに確実に取付けます。

取扱いのポイント

カバーやグリッドの取付けが不完全であったり、ろ過部（ウレタン、紙製）が変形して取付けられた場合、またカバーやグリッド、ろ過部（ウレタン、紙製）が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやグリッド、ろ過部（ウレタン、紙製）などは確実に取付けてください。

発電機周辺の点検

- 燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
- 建物および他の設置物から 1m 以上離れていますか。
- 風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- 排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
- 周囲に火の気はないですか。
- 発電機をダンボール等で囲っていませんか。
- 使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。
やむをえず使用する場合は、発電機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- 吸気口が石や土などで遮断されていませんか。
- 傾斜地では使用しないでください。



発電機のかけかた

⚠ 警告

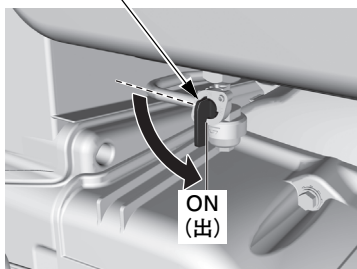
屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

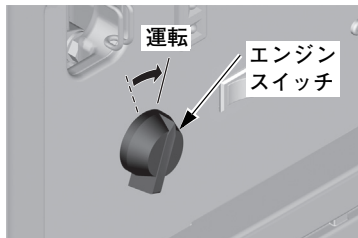
発電機のコンセントから使用電気機器のプラグが抜いてあることを確認してください。電気機器が接続されたまま発電機を始動すると、電気機器が不意に作動を始め思わぬケガや事故を起こす可能性があります。また始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

1. 燃料コックレバーを“ON”（出）の位置にします。

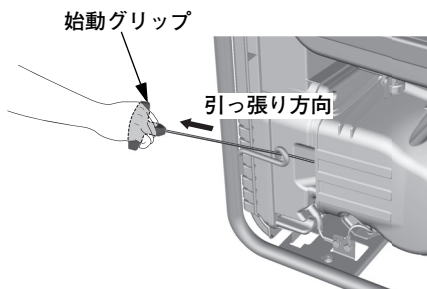
燃料コックレバー



2. エコスロットルスイッチを“切”の位置にします。
エコスロットルスイッチが“入”の位置のままエンジンを始動すると、エンジン暖機に時間がかかります。
3. エンジン冷間時は、チョークロッドをいっぱいに引いて“始動”の位置にします。
エンジンが暖まっているときは操作不要です。
4. エンジンスイッチを“運転”の位置にします。



5. 始動グリップを静かに引いて、重くなる所で止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



取扱いのポイント

- 始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

6. 始動後エンジンの回転が安定したらチョークロッドを徐々に戻して“運転”の位置にし暖機運転を行います。



非常用電源などの用途で常時使用しない場合の試運転は、暖機運転後に照明機器などを使用して(27 頁参照)10 分間以上運転してください。エコスロットルスイッチを必要に応じて操作してください。(14 頁参照)

電気の取出しかた

電気機器を接続する前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう”の項目をよくお読みください。

⚠ 警告

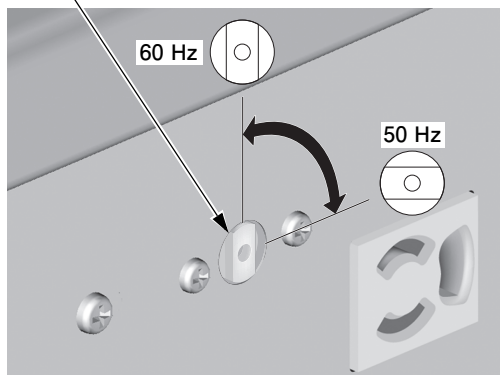
電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。
火災あるいは人身事故、または本機や使用電気機器が故障する原因となります。

- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。
- 使用する電気機器の消費電力を確認いただき、「交流電源の使用できる範囲」内で電気機器を使用してください。(51 頁参照)
- 使用する電気機器・電源プラグは、電気機器の説明書に従ってください。

交流

1. 周波数切換えスイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。

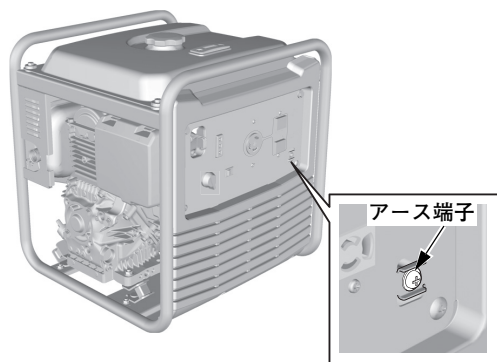
周波数切換えスイッチ



-
2. 発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアース※してください。

※アース工事には「電気工事士」の資格が必要です。

アースに関するご不明点は、お買いあげ販売店にご相談ください。

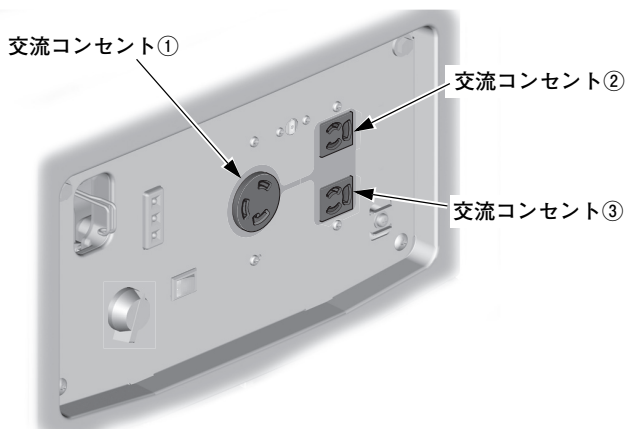


3. 接続する電気機器の差込みプラグが抜けていることを確認します。
4. 「発電機のかげかた」に従ってエンジンを始動します。(25 ~ 26 頁参照)
- 出力表示灯 (緑のランプ) が点灯せず、過負荷警告灯 (赤のランプ) が点灯した場合はエンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンを一旦停止させてから、エンジンを再始動してください。(49 頁参照)

5. 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。

⚠注意

接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認してください。電気機器のスイッチが入っていると、電気機器が急に作動し、思わぬケガや事故を起こす可能性があります。



交流コンセント	取出し電気	使用可能プラグ例 〔アース付きプラグ〕
①	100V 最大 25A	パナソニック WF8330 明工社 MH2578
②	100V 最大 15A	—
③	100V 最大 15A	—

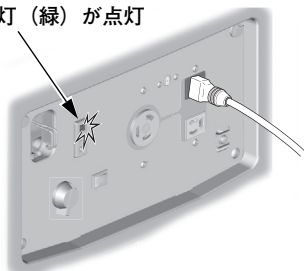
プラグ側の配線作業には専門の知識が必要ですので、配線作業は専門の電気業者に相談してください。

6. 電気機器のスイッチを入れます。

- ・正常運転（定格負荷）でご使用の場合は、出力表示灯（緑のランプ）が点灯し続けます。

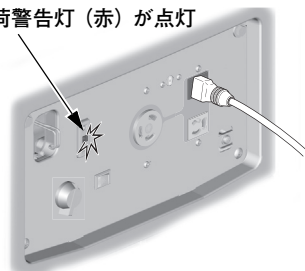
正常運転の場合

出力表示灯（緑）が点灯



過負荷運転や短絡の場合

過負荷警告灯（赤）が点灯



- ・過負荷運転（51 頁参照）や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯（緑のランプ）が消え、過負荷警告灯（赤のランプ）が点灯し続け、電気が取出せなくなります。

このときエンジンは停止しませんのでエンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンを停止してください。

取扱いのポイント

- ・過負荷警告灯は次のような場合も点灯します。
インバーターの温度が異常に高くなったとき、電気が取出せなくなります。冷却風取入口がふさがれていないことを確認してください。
- ・モーターなどの大きな起動電力を必要とする電気機器を使用すると、一時的（約 4 ～ 10 秒間）に過負荷警告灯（赤のランプ）と出力表示灯（緑のランプ）が同時に点灯しますが異常ではありません。電気機器が起動した後は、過負荷警告灯（赤のランプ）が消え出力表示灯（緑のランプ）が点灯し続けます。

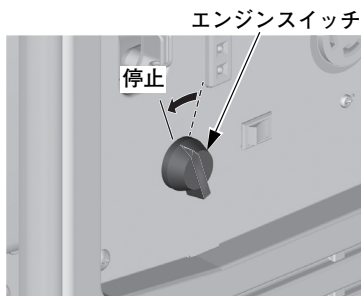
発電機のとめかた

緊急停止の場合

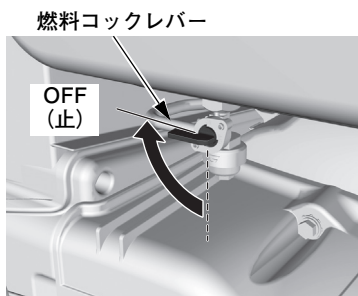
エンジンスイッチを“停止”の位置にします。

通常の停止

1. 電気機器のスイッチを切ります。
2. 差込みプラグを抜きます。
3. エンジンスイッチを“停止”の位置にします。



4. 燃料コックレバーを“OFF”（止）の位置にします。



⚠ 警告

発電機を保管するときや点検整備時には燃料漏れを防ぐために燃料コックレバーを“OFF”（止）の位置にしてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

定期点検を行いましょ

お買いあげいただきましたHonda発電機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょ。

定期点検表

点検時期 (3)		作業前 点検	1 か月目 または 初回 5 時間 運転目	3 か月毎 または 25 時間 運転毎	6 か月毎 または 50 時間 運転毎	1 年毎 または 100 時間 運転毎	2 年毎 または 250 時間 運転毎	参照頁	
点検項目									
エンジンオイル	点検	○						22	
	交換		○		○ (2)			33	
エアクリーナー	点検	○						23	
	清掃			○ (1)				35	
	交換						○ (※)		
燃料ろ過カップ	清掃					○		41	
スパークプラグ	点検					○		38	
	調整								
	交換						○		
スパークアレスター	清掃					○		40	
吸入、排気弁の すき間	点検 調整						○ (4)	-	
タイミングベルト	点検	250 時間運転毎 (4) (6)							-
燃焼室	清掃	250 時間運転毎 (4) (5)							-
燃料タンクおよび フィルター	清掃						○ (4)	-	
燃料チューブ	点検	2 年毎 (必要なら交換) (4)							-

(※) 紙ろ過部のみ交換してください。

- (1) ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は 10 時間運転毎または 1 日 1 回行ってください。
- (2) 高負荷、高温時は 25 時間運転毎のエンジンオイル交換を実施してください。
- (3) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- (4) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
- (5) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。
- (6) ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。

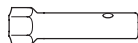
点検・整備のしかた

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを“停止”の位置にし、スパークプラグキャップを取外して行ってください。

同梱工具

本機には工具が同梱されています。点検・整備の際は、同梱工具を使用してください。誤った工具を使用すると、本機を損傷させることがあります。



プラグレンチ



プラグレンチハンドル

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度や、油温が高くなっています。点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》

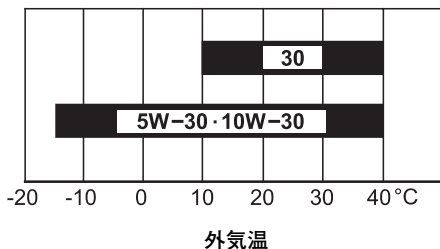
Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE 10W-30)

または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

《規定量》

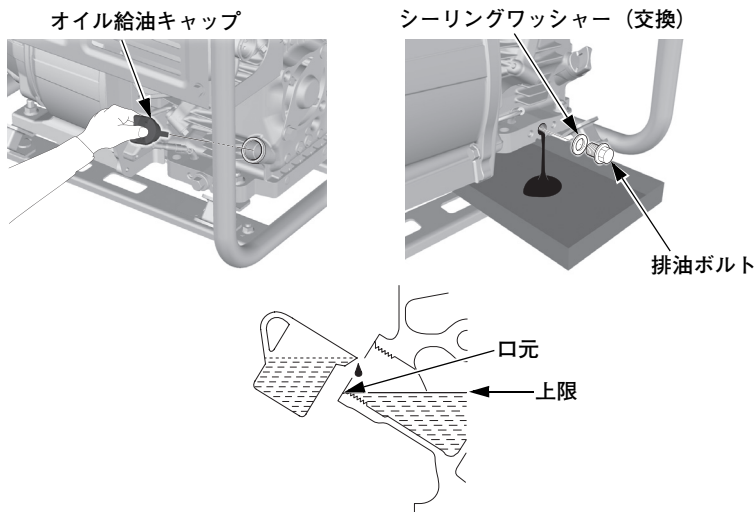
0.58 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



交換のしかた

1. オイル給油キャップを外します。
2. 排油ボルト、シーリングワッシャーを外して、オイルを抜きます。
3. 排油ボルトをきれいにし、新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
締付けトルク：24 N·m (2.4 kgf·m)
4. 新しいエンジンオイルを給油口の口元まで注入します。
5. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



取扱いのポイント

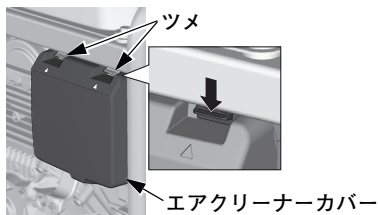
- 外したシーリングワッシャーを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリングワッシャーを使用してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

エアクリナー（空気清浄器）の清掃・交換

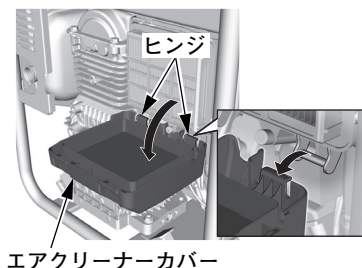
エアクリナーが目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

ろ過部（紙製、ウレタン）の清掃・交換

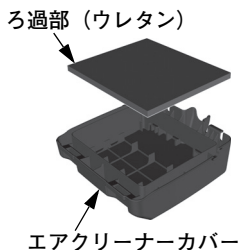
1. エアクリナー上部（▲マーク）のツメを押し下げて、エアクリナーカバーの上部を外します。



2. エアクリナーカバーを開き、エアクリナーカバーの下部（ヒンジ）を外します。



3. ろ過部（ウレタン）をエアクリナーカバーから取外します。



4. ろ過部（ウレタン）の清掃

ろ過部（ウレタン）を洗浄・乾燥・含油して固くしぼります。

- ろ過部（ウレタン）は、ねじるようにしてしぼらないでください。
- エンジンオイル：ウルトラ U 汎用 SAE 10W-30
(またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイル)

⚠ 警告

洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。

洗浄は換気の良い場所で行ってください。

「洗い油」または「水で薄めた中性洗剤」で洗う

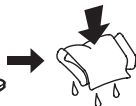
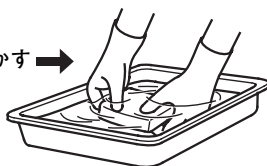
布で包み押しつぶすようにしぼる

新しいエンジンオイルに浸す

布で包み押しつぶすようにしぼる

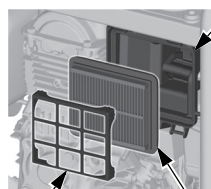


乾かす



- #### 5. グリッドとろ過部（紙製）をエアクリーナーケースから取外します。

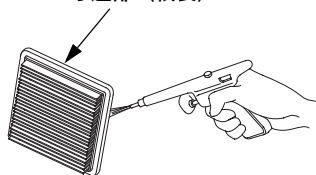
エアクリーナーケース



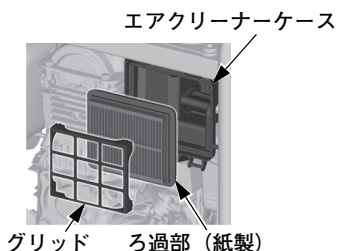
グリッド ろ過部（紙製）

- #### 6. ろ過部（紙製）の清掃・交換
- ろ過部（紙製）は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。

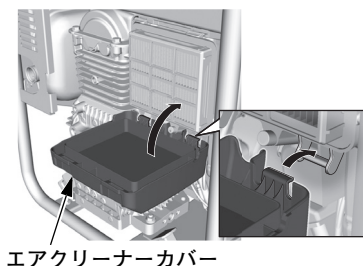
ろ過部（紙製）



7. ろ過部（ウレタン）をエアクリーナーカバーの内側に確実に取付けます。
8. グリッドとろ過部（紙製）をエアクリーナーケースに確実に取付けます。



9. エアクリーナーカバーを確実に取付けます。



取扱いのポイント

- カバーやグリッドの取付けが不完全であったり、ろ過部（ウレタン、紙製）が変形して取付けられた場合、またカバーやグリッド、ろ過部（ウレタン、紙製）が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやグリッド、ろ過部（ウレタン、紙製）などは確実に取付けてください。
- 使い終わったエンジンオイルや洗い油はゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。

スパークプラグの点検・調整・交換

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラー、スパークプラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

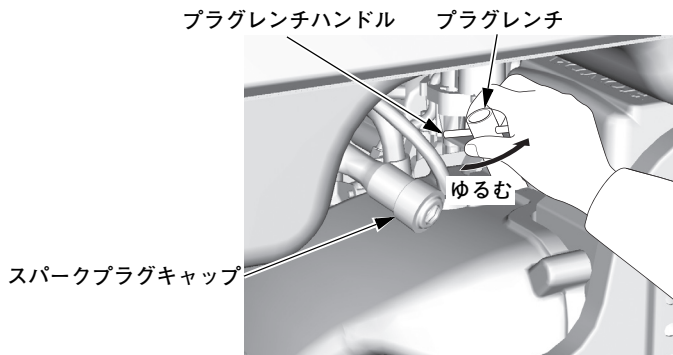
- 故障の原因となるので指定以外のスパークプラグを使用しないでください。
- スパークプラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くいっぱいまでねじ込み、次に同梱のプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後はスパークプラグキャップを確実に取付けてください。

スパークプラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなり発電機の不調の原因となります。

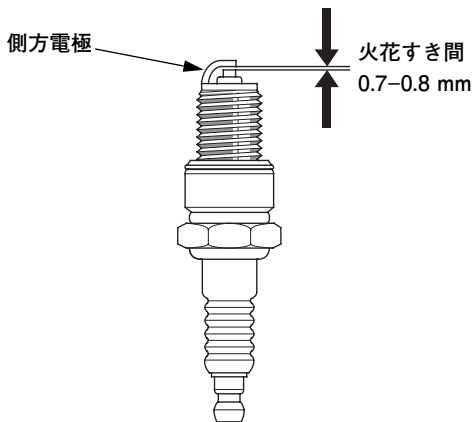
《指定プラグ》 BPR6ES (NGK)

点検・調整のしかた

1. スパークプラグキャップをスパークプラグから外します。
2. 同梱のプラグレンチ、プラグレンチハンドルでスパークプラグを取外します。



-
3. スパークプラグが汚れていたら清掃します。
清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
プラグクリーナーがないときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。
 4. 側方電極を曲げ、火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.7-0.8 mm



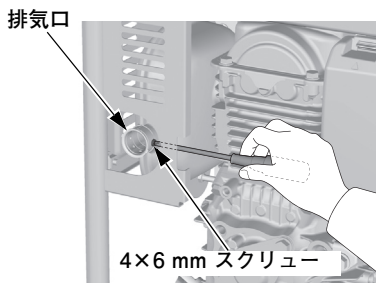
5. 取付けはまず指で軽くいっぱいまでねじ込み、次に同梱のプラグレンチで確実に締付けます。
締付けトルク：20 N·m (2.0 kgf·m)
6. スパークプラグキャップをスパークプラグに確実に取付けます。

スパークアレスターの清掃

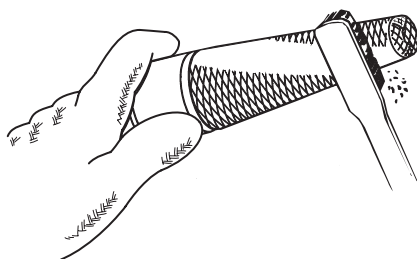
⚠注意

エンジン停止直後のマフラーは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

1. 4×6 mm スクリューを外し、排気口からスパークアレスターを取外します。



2. ブラシ等でスパークアレスターに付いたカーボンを落とします。スパークアレスターの網部分を損傷させないように注意してください。損傷がある場合は交換してください。



3. スパークアレスターを取付け、4×6 mm スクリューで確実に締付けます。

燃料ろ過カップの清掃

⚠ 警告

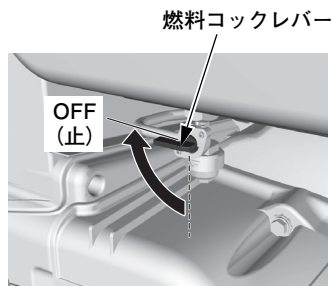
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- ガソリンはこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

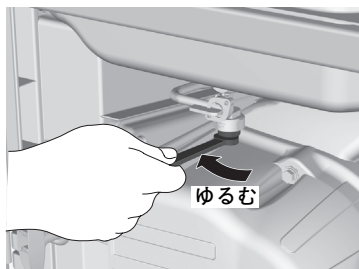
燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。定期的に清掃を行ってください。

清掃のしかた

1. 燃料コックレバーを“OFF”（止）の位置にします。



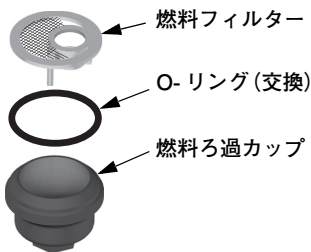
- 燃料ろ過カップを左に回して、燃料フィルター、O-リングとともに取外します。
- 燃料ろ過カップと燃料フィルターを洗剤で洗浄します。



警告

洗剤は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

- 洗浄後、燃料フィルターと新しい O-リングを元通り取付け、燃料漏れのないよう燃料ろ過カップを確実に締付けてください。
締付けトルク：4.5 N·m (0.46 kgf·m)
- 燃料コックレバーを“ON”（出）にし燃料漏れのないことを確認します。



非常用電源などの用途にご使用の場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月 1 回試運転を行ってください。燃料やオイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

- ガソリンは自然劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。
- オイルは自然劣化しますので定期点検表（32 頁参照）に従い交換してください。

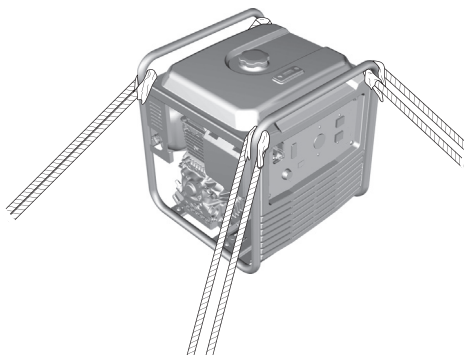
試運転のしかた

1. 「運転する前に点検しましょう」に従って、燃料、エンジンオイル、エアクリナーを点検します。（20 ～ 24 頁参照）
2. 「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。（25 ～ 26 頁参照）
3. 照明などの負荷をかけて 10 分間以上運転します。
4. エンジンの調子、オイル、燃料の漏れ、出力表示灯、エンジンスイッチの作動を確認します。

運搬する場合には

発電機を車両等で運搬する場合には、次のことを必ず守ってください。

1. エンジンスイッチを“停止”の位置にします。
 2. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
 3. 燃料給油キャップを確実に締付けます。
 4. 燃料コックレバーを“OFF”（止）にします。
 5. 発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載し、ロープ等でしっかり固定します。
- 運搬中に発電機を落下させたり衝撃を与えないでください。また発電機の上に重量物をのせないでください。



⚠ 警告

- 燃料を入れたまま発電機を車両に積載し運搬しないでください。運搬による振動等で燃料が漏れる場合があります。
- 車室内やトランクに発電機を積んだまま、直射日光の当たる所や高温となる場所に長時間放置しないでください。車両の内部が高温になり、燃料が気化して引火しやすい状態になり危険です。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- ガソリンはこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

⚠ 注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

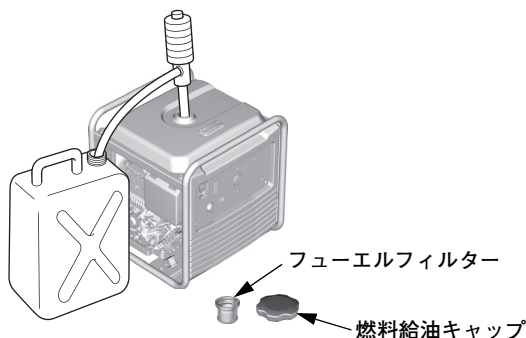
1. 発電機各部の清掃を行います。

⚠ 警告

発電機を水洗いしないでください。

電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

2. エアクリーナーを清掃します。(35 頁参照)
3. 燃料給油キャップとフューエルフィルターを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内のガソリンを専用容器に移してください。電動式のポンプは使用しないでください。



4. 燃料が抜けたら燃料タンクにフューエルフィルターを取付け、燃料給油キャップを確実に締付けます。
5. 燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜きます。

取扱いのポイント

ガソリンは自然に劣化します。必ず抜いてください。

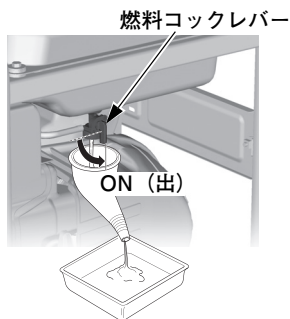
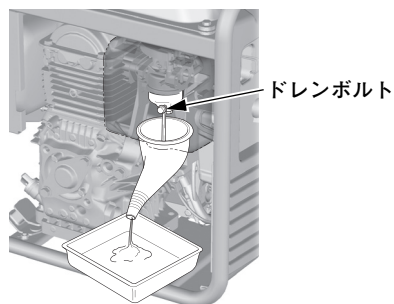
燃料を受けるため、適切な容器を配置してください。

1. 燃料コックレバーを“OFF”（止）にし、キャブレターのドレンボルトを1～2回転ゆるめ、キャブレター内の燃料を容器に受けます。
2. 燃料ろ過カップ、燃料フィルター、O-リングを外し、燃料コックレバーを“ON”（出）にし、燃料タンクの燃料を容器に受けます。
3. 完全に燃料が抜けたら、キャブレターのドレンボルトを確実に締付けます。
締付けトルク：4.9 N·m (0.50 kgf·m)
4. 燃料ろ過カップと燃料フィルターを洗浄後、新しいO-リングとともに元通り取付け、燃料漏れのないよう燃料ろ過カップを確実に締付けます。(42 頁参照)
締付けトルク：4.5 N·m (0.46 kgf·m)
5. 燃料コックレバーを“OFF”（止）にし燃料漏れのないことを確認します。

- 始動グリップを引き、重くなった所で止めます。
- 発電機が十分冷えてから、シート等をかけ、風通しの良い湿気の少ない所に保管します。

取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。



修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

エンジンが始動しないとき

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（25 頁参照）
2. 燃料はありますか？（20 頁参照）
3. エンジンオイルは規定量ありますか？（22 頁参照）
本機はオイルアラート機構付きです。エンジンオイルが不足していたり発電機が傾いていると、始動グリップを引いても、オイル警告灯／チェックが点灯してエンジンはかかりません。
オイル量が正常で、エンジン始動後すぐに停止し、オイル警告灯／チェックが点灯する場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。
4. スパークプラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（38 頁参照）
 - ・スパークプラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しいスパークプラグと交換してください。

電気が取出せないとき

1. 過負荷警告灯が点灯している場合、次の確認を行ってください。
 - ・使用電気機器に異常がないか
 - ・電気の取出し過ぎでないか（51 頁参照）
 - ・冷却風取入口がふさがれていないか
2. エンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンを一旦停止させます。少し時間をおいてからエンジンを再始動して、もう一度確認してください。
エコスロットルスイッチ“入”の場合、保護機能により電気を取出せないことがあります。エンジンを一旦停止して、エコスロットルスイッチ“切”で発電を試みてください。

警告灯の点灯パターン

過負荷警告灯およびオイル警告灯／チェックは、発電機の状態によって次のパターンで点灯／点滅します。

警告灯表示		動作	状態	参照頁
過負荷警告灯	オイル警告灯 ／チェック			
点灯	—	発電を停止したのち、 アイドル運転で待機	過負荷状態 使用電気機器異常 インバーター過熱	16 50 51
—	点灯	エンジン停止	エンジンオイル不足	17 22
点滅	点灯	発電を停止したのち、 エンジン停止	インバーター故障	※

※ お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

主要諸元

項 目	名 称	EG25i
タ イ プ		JN
型 式		EABA
原 動 機 の 形 式		強制空冷 4 ストローク OHC 単気筒 立型
総 排 気 量		186 cm ³
内 径 × 行 程		69.0 × 50.0 mm
使 用 燃 料		無鉛レギュラーガソリン
燃 料 タ ン ク 容 量		8.1 L
潤 滑 油 容 量		0.58 L
始 動 方 式		リコイルスターター
発 電 部 型 式		多極界磁回転型
機 体 形 式		携帯用パイプフレーム
寸 法		
全 長		430 mm
全 幅		448 mm
全 高		481 mm
乾 燥 質 量 (重 量)		29.9 kg
出 力		
定格出力 (交流)		2500 W (VA)
定 格 周 波 数		50 Hz/60 Hz
定格電圧 (交流)		100 V
定格電流 (交流)		25 A
電 圧 調 整 方 式		PWM 方式
出力端子 (交流)		アース式コンセント (抜け止め式) アース式コンセント
連続運転可能時間		約 12.1 時間 [エコスロットル作動時、1/4 負荷] 約 5.1 時間 [エコスロットル作動時、定格負荷]

この諸元は予告なく変更することがあります。

交流電源の使用できる範囲

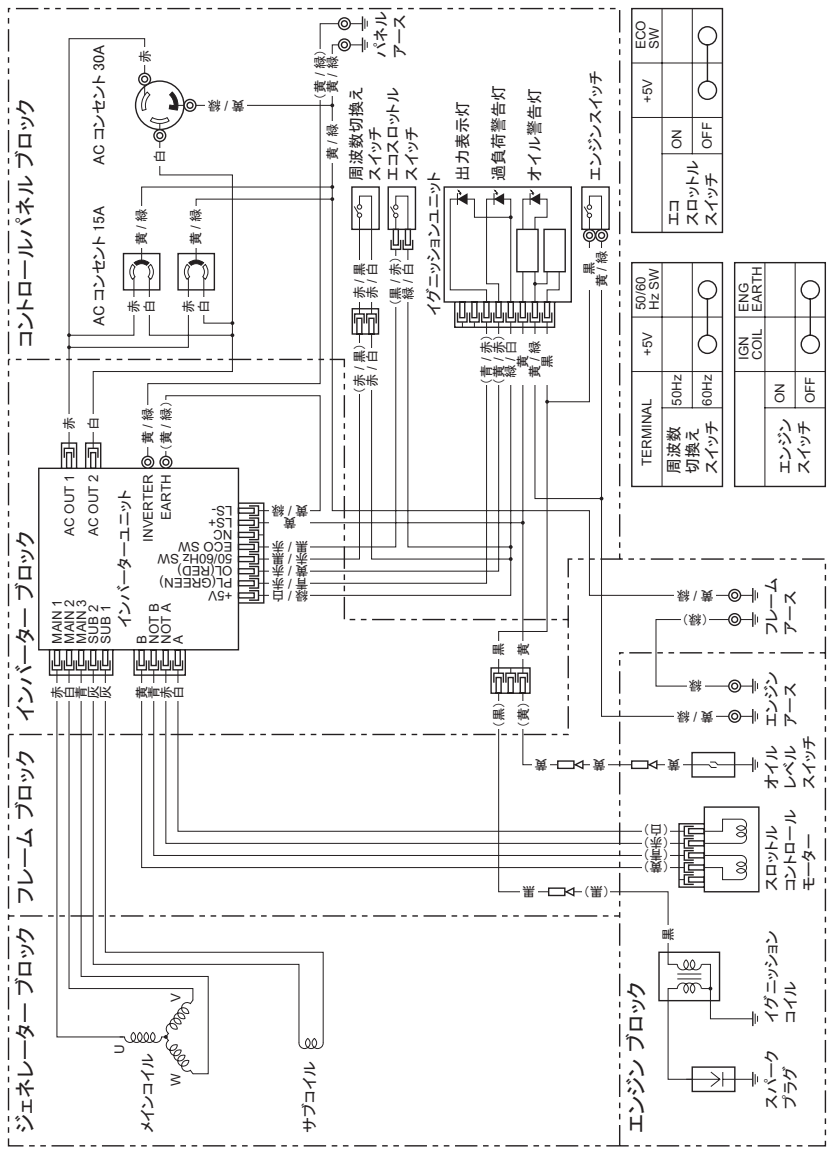
	EG25i
オーブントースター 電気ポット 炊飯器 テレビ 照明（白熱灯、 ハロゲン灯など）	2500 W (VA) まで
ドリル ※1 ジグソー 丸ノコ 掃除機	750 W (VA) まで
コンプレッサー ※1 照明（水銀灯、 ※2 メタルハライド ランプなど）	400 W (VA) まで

※1 モーターは起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。

※2 安定器の付いた放電タイプのランプ（水銀灯、メタルハライドランプなど）を消灯した場合、再点灯はランプが冷えるまで待ってから行ってください。発電機や使用電気機器に不具合が発生するおそれがあります。

使用する負荷によっては発電機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

配線図



Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお
客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120 - 112010

イイフレアイオ

受付時間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 - 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のう
え、ご相談ください。

- (1) 製品名、タイプ名
- (2) ご購入年月日
- (3) 販売店名

HONDA
The Power of Dreams

30Z43600
00X30-Z43-6000

© 2016 本田技研工業株式会社